

新年度が始まって1ヶ月が経ちました。新しい環境はどうでしょうか。わたしたちジオパークの事務局も新たなメンバーが加わって、バタバタしながらも楽しい日々を過ごしています。今年度もよろしくお願いします。

室戸市観光ガイドの会、島原半島ユネスコ世界ジオパークで防災について考える



島原半島ユネスコ世界ジオパーク



【地図：島原半島ジオパーク協議会】

長崎県島原市、雲仙市、南島原市の3つの市をそのエリアとする島原半島ユネスコ世界ジオパーク。エリアの中心には雲仙火山がそびえていて、そのテーマは「人と火山の共生」です。

島原半島に住む人々は、昔から繰り返して起きていた火山の噴火と共存してこなければならず、同時にその恩恵も受けています。室戸にとっての地震と似ています。今年の2月、室戸市観光ガイドの会の会員さんが室戸ジオパーク職員と、島原半島を訪問し、防災の取り組みについて学びました。

その時の体験を、ガイドの宮崎万純さんがレポートしてくれました。写真も全て宮崎さん撮影のものです。

島原半島は1991年(平成3年)に火山の噴火によって大きな被害を受けた地域で、その後も毎年のように土石流が起こっています。江戸時代には地震と山の崩落、それによる津波の被害もありました。

災害が多い地域なので、人々の防災に対する意識も高く、まちのいたるところに慰霊碑があり、常に住民がお供えの生花を交換しているようでした。先祖からの伝承、さらに1991年の噴火、度重なる土石流、そして毎日当たり前のように雲仙火山はそばにありました。手前のボコボコしている山は平成の噴火でできたので、「平成新山」(写真左下)と呼ばれています(といってもほぼ一つの山)。山のふもとには1991年の噴火の前までは集落がありましたが、すべて埋まってしまいました。



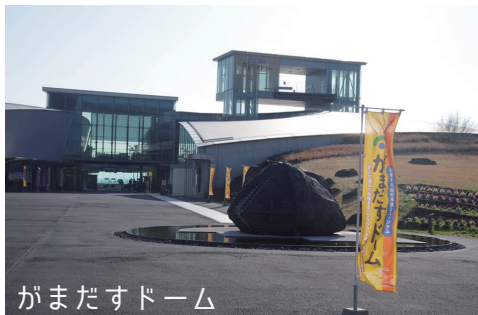
平成新山

島原市内には30ヶ所くらい湧水の湧き出る場所があります。それも火山のめぐみの一つ。湧水も島原の人たちの生活に欠かせないものとなっています。写真右の湧水では、野菜や洗濯物など色々なものを洗えるようになっていて、それぞれ洗う場所が決まっています。現在も周辺に住む人たちが使っているそう。



生活のすぐ近くにある湧き水

う。このように、住民の方たちは火山のめぐみを得て生活しながらも、災害に対する意識が強くあることもわかりました。室戸は地震、島原は火山で、火山の噴火は一定程度予知ができるので災害の性質が違いますが、今回島原の防災体制を見てきて、色々と考えさせられました。



がまだすドーム



がまだすドーム内

がまだすドームは、火山噴火の被害を後世に伝える役割を果たしていて、島原半島ジオパークの拠点施設にもなっています。被害だけではなく、火山のめぐみを伝えるコーナーもありました。火山と人々の生活が密接に関わっていることが、非常にわかりやすく展示されていました。館内には子どもが遊べるコー

ナーもあり、ジオパーク拠点施設内に親子連れで普段から気軽に利用できる場所があることは、とてもいいと思いました。

2019年度の室戸高校と室戸ジオパークの連携事業の報告書ができあがりました

2019年度は、室戸高校がジオパークの持つ国内・国外ネットワークをこれまで以上に積極的に活用し始めた年でした。室戸が今抱えている課題（人口減少、高齢化、雇用の少なさなど）をより広い視座から観察し、そうした課題をクリアにするために取るべき行動を自ら考えられる人材を育成したいと、室戸高校で新たな事業が開始されました。そこで活用されたのが、ジオパークのネットワークです。世界に147地域（2019年4月現在）、国内に43地域（2020年4月現在）のジオパークがあり、室戸高校の生徒らはそのネットワークを使い、いろんな体験をしました。

具体的に生徒らがどんな活動をして、どういう感想を持ったのかということが一冊の報告書にまとまっています。室戸高校のHPでも閲覧できますし、室戸世界ジオパークセンター1階にも自由閲覧用に1冊ご用意しています。地域で生活する子どもたちが、室戸をどのように見ていて、外の世界を見たあと何を感じたか、ということがわかるのではないのでしょうか。子どもたちの目にうつる室戸の姿を知ることが、これからの室戸を考える上の鍵だと言えます。



2019年9月インドネシアで開催されたジオパークシンポジウムには前田前教頭も参加。

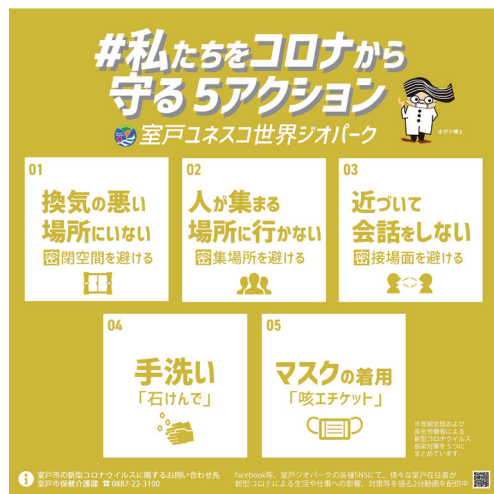


2019年11月、大分県豊後大野市で開催された日本ジオパーク全国大会に参加、発表。



室戸以外で初めて訪れたジオパークであるランカウイ。室戸を外から見る経験をした。

私たちをコロナから守る5アクション



世界中で感染が拡大するコロナウイルス。コロナウイルスが身近に迫っている中で、危機感を持っている市民の方も多くいると思います。これ以上の拡大を防ぐ為に、何ができるのでしょうか？

室戸ジオパークでは、「まがり博士」がマスクをしながら、私たちをコロナから守る5つの感染防止行動を注意喚起するチラシを作成しました。室戸ジオパークのFacebook、InstagramなどSNSには、地域住民のコロナ対策についてのインタビュー動画を上げています。この動画を通して、今室戸がどのような影響を受けているのか、こういった意識や行動が大切なのか、みんなで考えていきたいと思っています。



動画はこちらから↑

2020年ゴールデンウィークのイベント等の自粛のお知らせ

すでにお知らせしているように、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、室戸世界ジオパークセンターは、4月11日（土）から5月6日（水）までの休館が決定しております。そのため、例年開催しておりますセンター内でのワークショップや体験プログラムはすべて開催自粛となります。

「室戸ジオパークだより」へのご意見・ご感想、ご賛同などなど、どんどんお気軽に下記連絡先までお問い合わせください。「こんな情報あるよ！」「こんな情報を掲載して」ということも、お待ちしております。

【発行】室戸ジオパーク推進協議会 (0887-22-5161)

Email: info@muroto-geo.jp

〒781-7101 高知県室戸市室戸岬町 1810-2 (担当: 谷)

